

2019年3月期 第2四半期 決算説明会

2018年11月5日
八千代工業株式会社

■ 決算説明

常務取締役
管理本部長

北村 哲也

■ 米州地域の生産対応について

代表取締役専務取締役
生産本部長

藤本 朋宏

■ 事業の方向性

代表取締役社長 山口 次郎

■ 決算説明

常務取締役
管理本部長

北村 哲也

■ 米州地域の生産対応について

代表取締役専務取締役
生産本部長

藤本 朋宏

■ 事業の方向性

代表取締役社長 山口 次郎

■ 2019年3月期 第2四半期 連結決算

■ 2019年3月期 連結業績見通し

■ 2019年3月期 第2四半期 連結決算

■ 2019年3月期 連結業績見通し

2019年3月期（6ヶ月間）連結業績(I F R S)

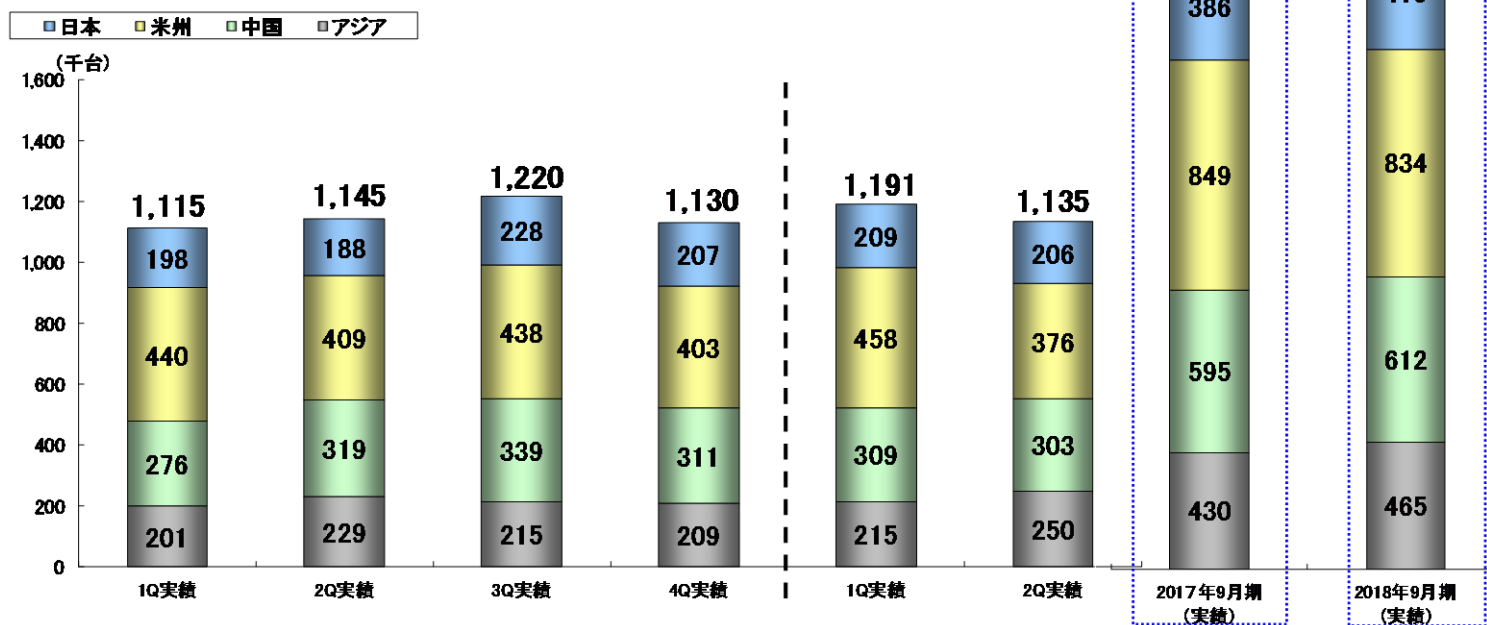
継続事業	2017年9月期 (実績)	2018年9月期 (実績)	前年同期比 (増減率)	2018年9月期 (計画)	5/8公表見通し からの増減額
売上収益 (自動車部品分野)	790億円	798億円	+8億円 (+1.1%)	825億円	-27億円 (-3.2%)
営業利益 (対売上収益比率)	52.9億円 (6.7%)	-4.1億円 (-0.5%)	-57.0億円 (-%)	40.0億円 (4.8%)	-44.1億円 (-%)
税引前四半期利益 (対売上収益比率)	52.3億円 (6.6%)	-5.0億円 (-0.6%)	-57.3億円 (-%)	40.0億円 (4.8%)	-45.0億円 (-%)
親会社の所有者に 帰属する四半期利益 (対売上収益比率)	29.5億円 (3.7%)	-25.7億円 (-3.2%)	-55.2億円 (-%)	23.0億円 (2.8%)	-48.7億円 (-%)
為替レート (USD)	111円	110円	1円 円高		

非継続事業	2017年9月期 (実績)	2018年9月期 (実績)	前年同期比 (増減率)
売上収益 (自動車部品分野)	52億円	-	-52億円
営業利益 (対売上収益比率)	12.0億円 (23.1%)	8.2億円 (-%)	-3.8億円 (-31.5%)
税引前四半期利益 (対売上収益比率)	12.0億円 (23.1%)	8.2億円 (-%)	-3.8億円 (-31.5%)
親会社の所有者に 帰属する四半期利益 (対売上収益比率)	12.0億円 (23.2%)	8.2億円 (-%)	-3.8億円 (-31.8%)

2019年3月期(6ヶ月間)(燃料タンク)自動車部品分野概況

	2017年9月期 (実績)	2018年9月期 (実績)	前年同期比 (増減率)
生産台数合計	2,260千台	2,326千台	+66千台 (+2.9%)
日本	386千台	415千台	+29千台 (+7.6%)
米州	849千台	834千台	-15千台 (-2.0%)
中国	595千台	612千台	+17千台 (+2.9%)
アジア	430千台	465千台	+35千台 (+8.3%)
売上収益	176億円	188億円	+12億円 (+4.6%)
内、為替影響	—	+0億円	+12億円 (+4.9%)

← 実質的な売上増

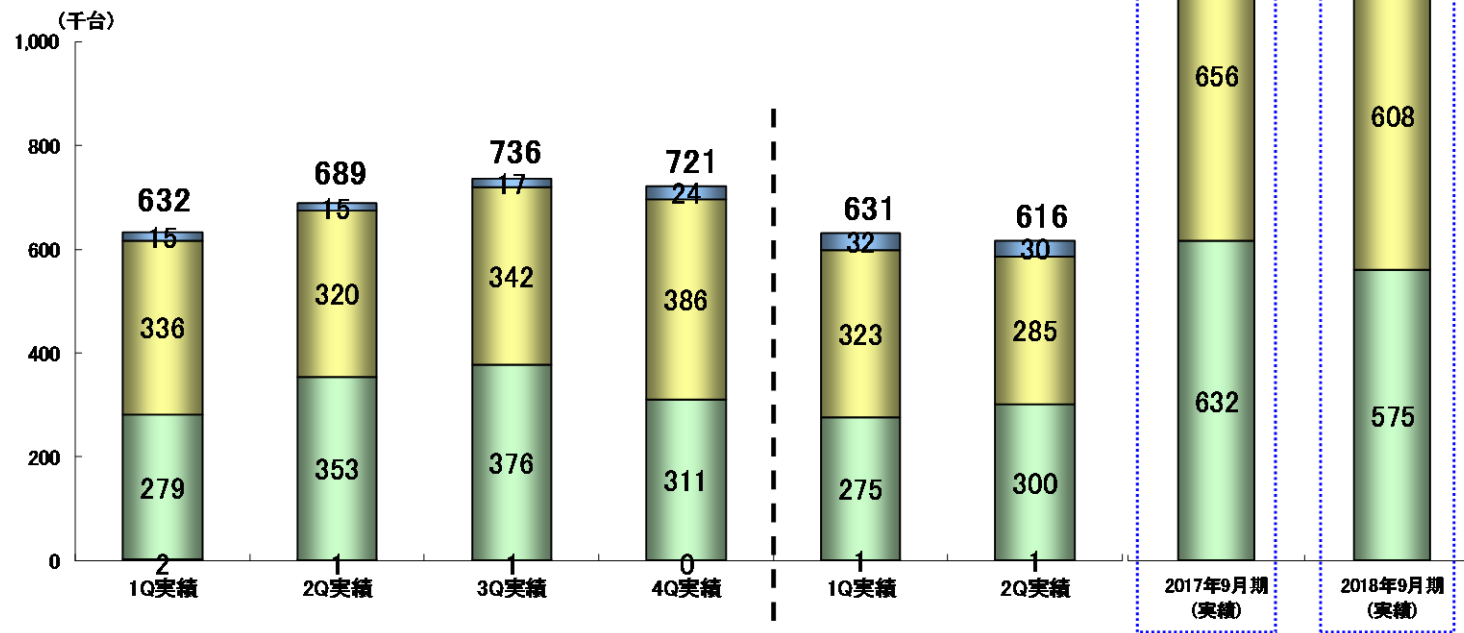


2019年3月期(6ヶ月間)(サンルーフ)自動車部品分野概況

	2017年9月期 (実績)	2018年9月期 (実績)	前年同期比 (増減率)
生産台数合計	1,321千台	1,247千台	-74千台 (-5.6%)
日本	30千台	62千台	+32千台 (+112.9%)
米州	656千台	608千台	-48千台 (-7.3%)
中国	632千台	575千台	-57千台 (-9.0%)
アジア	3千台	2千台	-1千台 (-40.3%)
売上収益	252億円	239億円	-13億円 (-5.1%)
内、為替影響	-	+1億円	-14億円 (-5.7%)

← 実質的な売上減

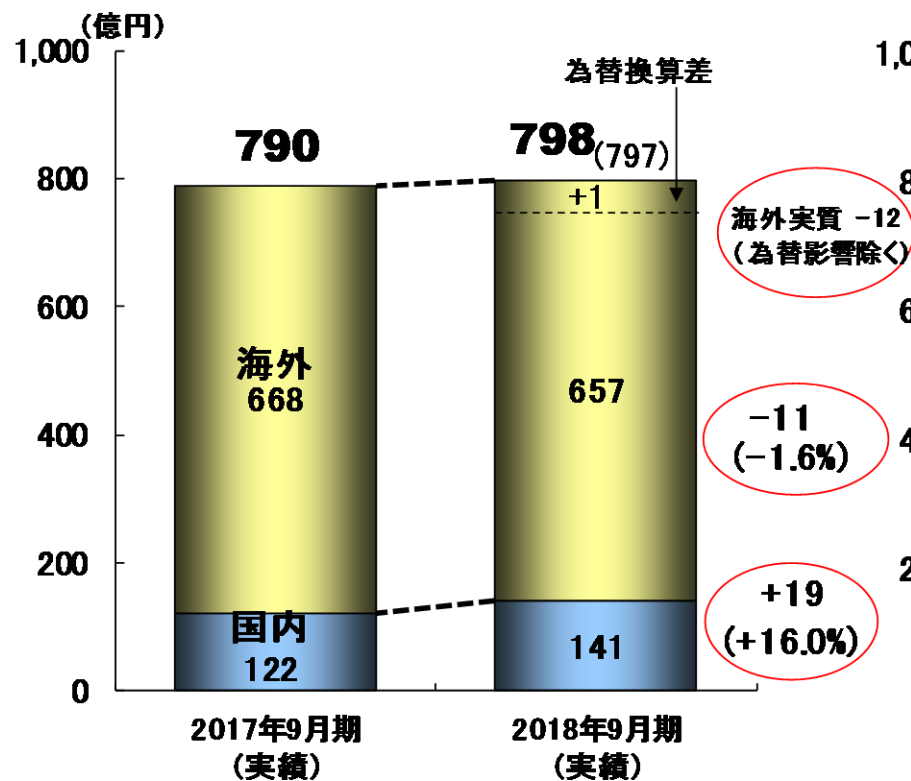
■日本 ■米州 ■中国 ■アジア



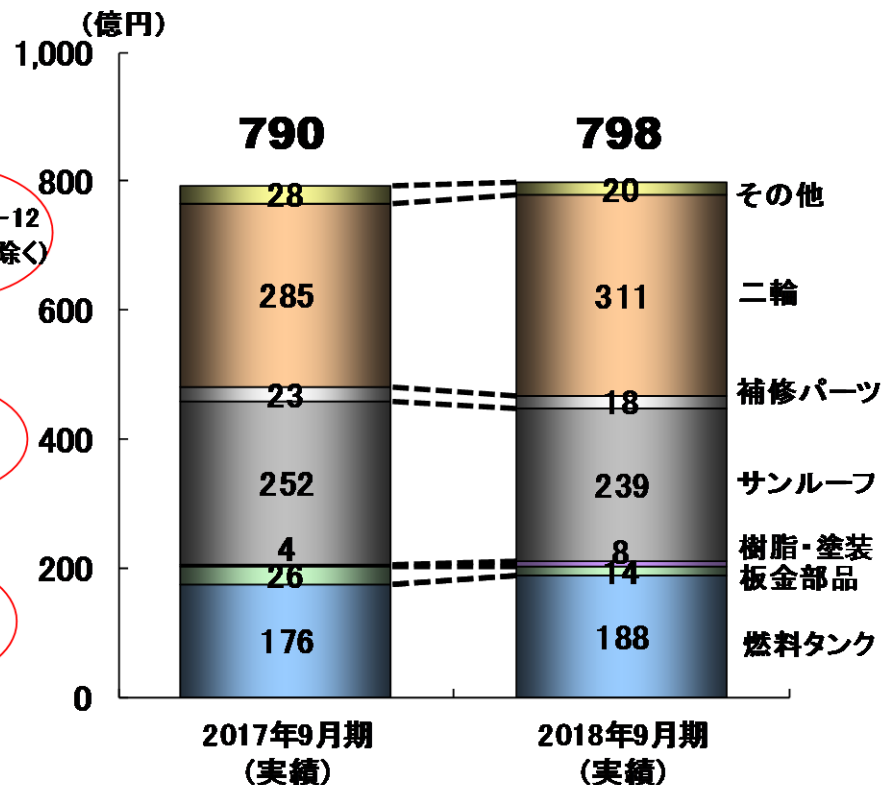
2019年3月期(6ヶ月間) 自動車部品分野概況

	2017年9月期 (実績)	2018年9月期 (実績)	前年同期比 (増減率)
売上収益	790億円	798億円	+8億円 (+1.1%)

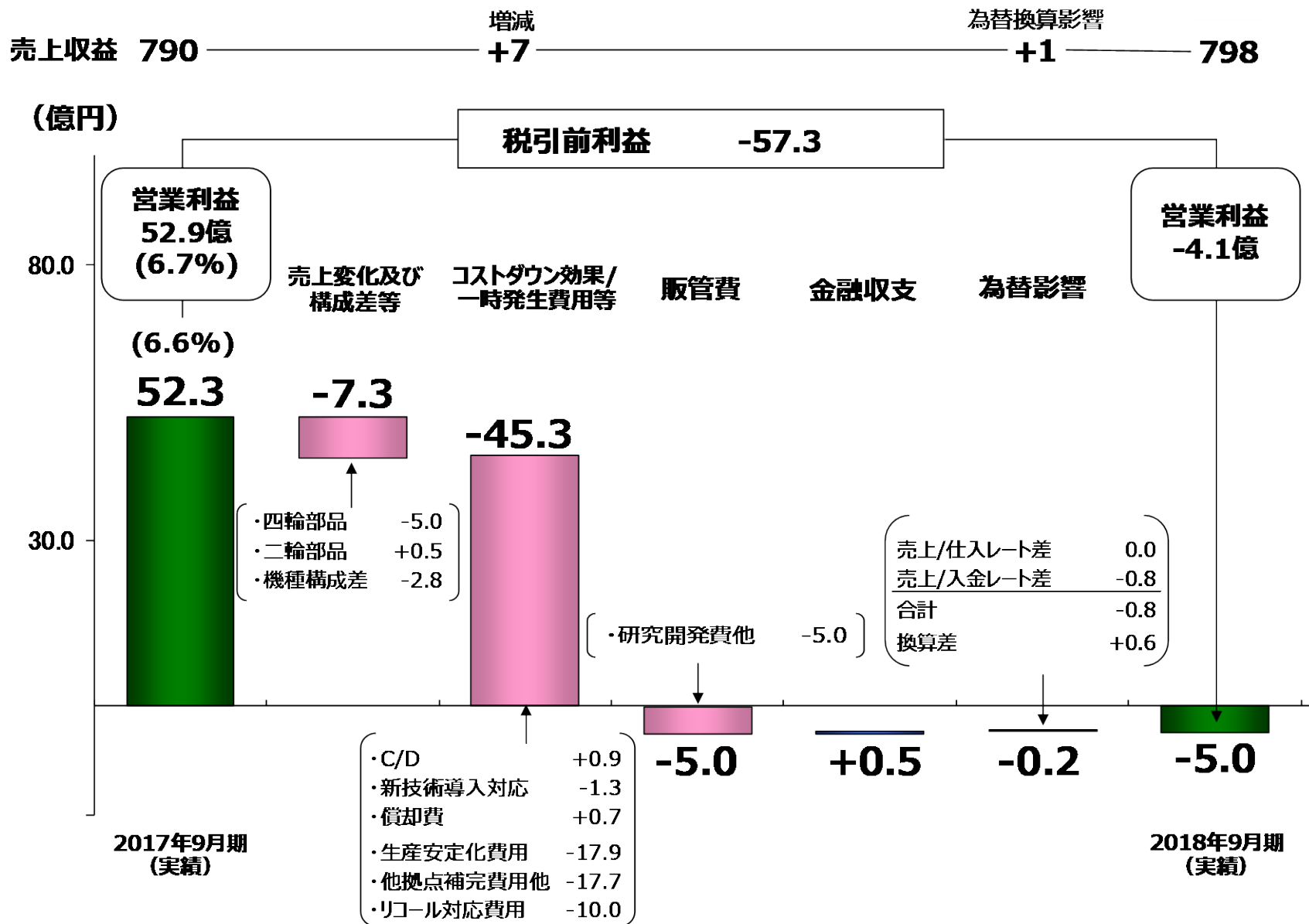
国内／海外区分



部品別区分



2019年3月期(6ヶ月間) 連結税引前利益増減要因



2019年3月期(6ヶ月間) 所在地別セグメント情報

【日本】

売上収益 +19

・四輪部品売上増	+9
・二輪部品売上増	+10

税引前利益 +5.8

・売上変化及び機種構成差	+4.3
・コストダウン他	+0.9
・償却費減	+0.7
・開発費減	+0.8
・為替影響	-0.9

【米州】

売上収益 -16

・メキシコ水害影響他	-14
・為替影響	-2

税引前利益 -52.8

・売上変化及び機種構成差	-5.4
・生産安定化費用	-17.9
・他拠点補充他	-17.7
・リコール対応費用	-10.0
・販管費増	-1.1
・新機種開発費増	-1.8
・為替影響	+1.1

【中国】

売上収益 -7

・部品売上減	-10
・為替影響	+3

税引前利益 -10.8

・売上変化及び機種構成差	-5.0
・新技術導入対応	-1.3
・中国増量物流費用	-1.2
・販管費増	-0.6
・新機種開発費増	-2.5
・為替影響	-0.2

【アジア】

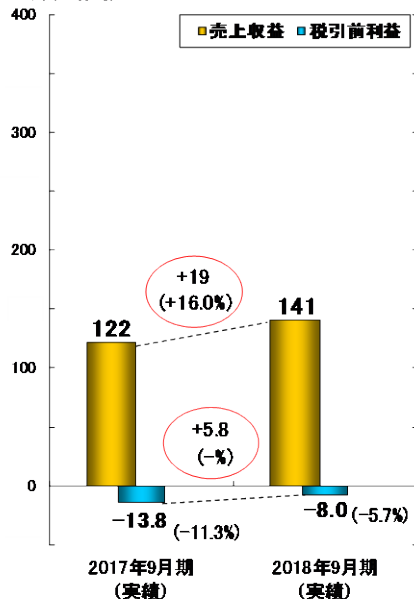
売上収益 +12

・二輪部品売上増	+9
・四輪部品売上増	+3

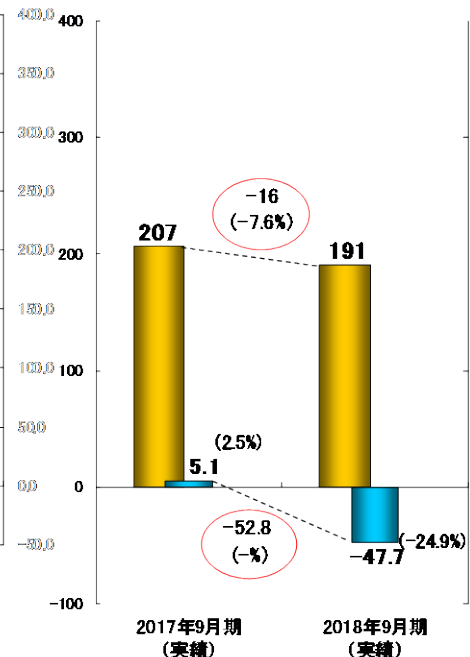
税引前利益 -1.7

・売上変化及び機種構成差	-1.2
・新機種開発費増	-1.5
・為替影響	+1.0

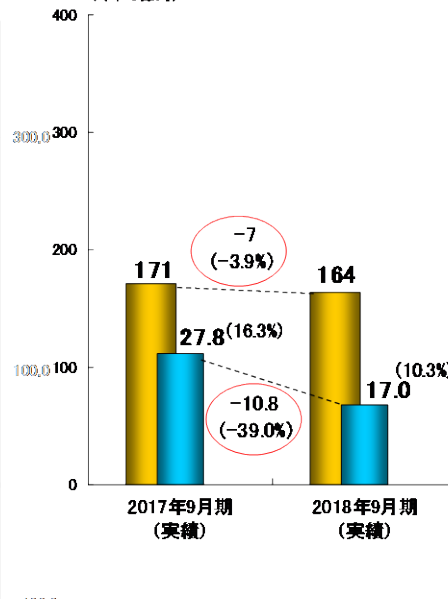
(単位:億円)



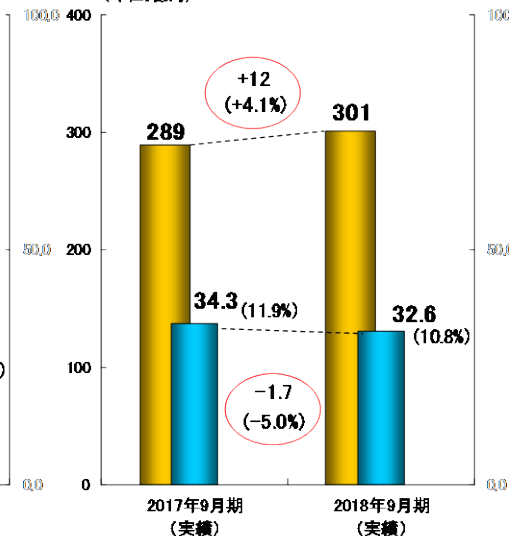
(単位:億円)



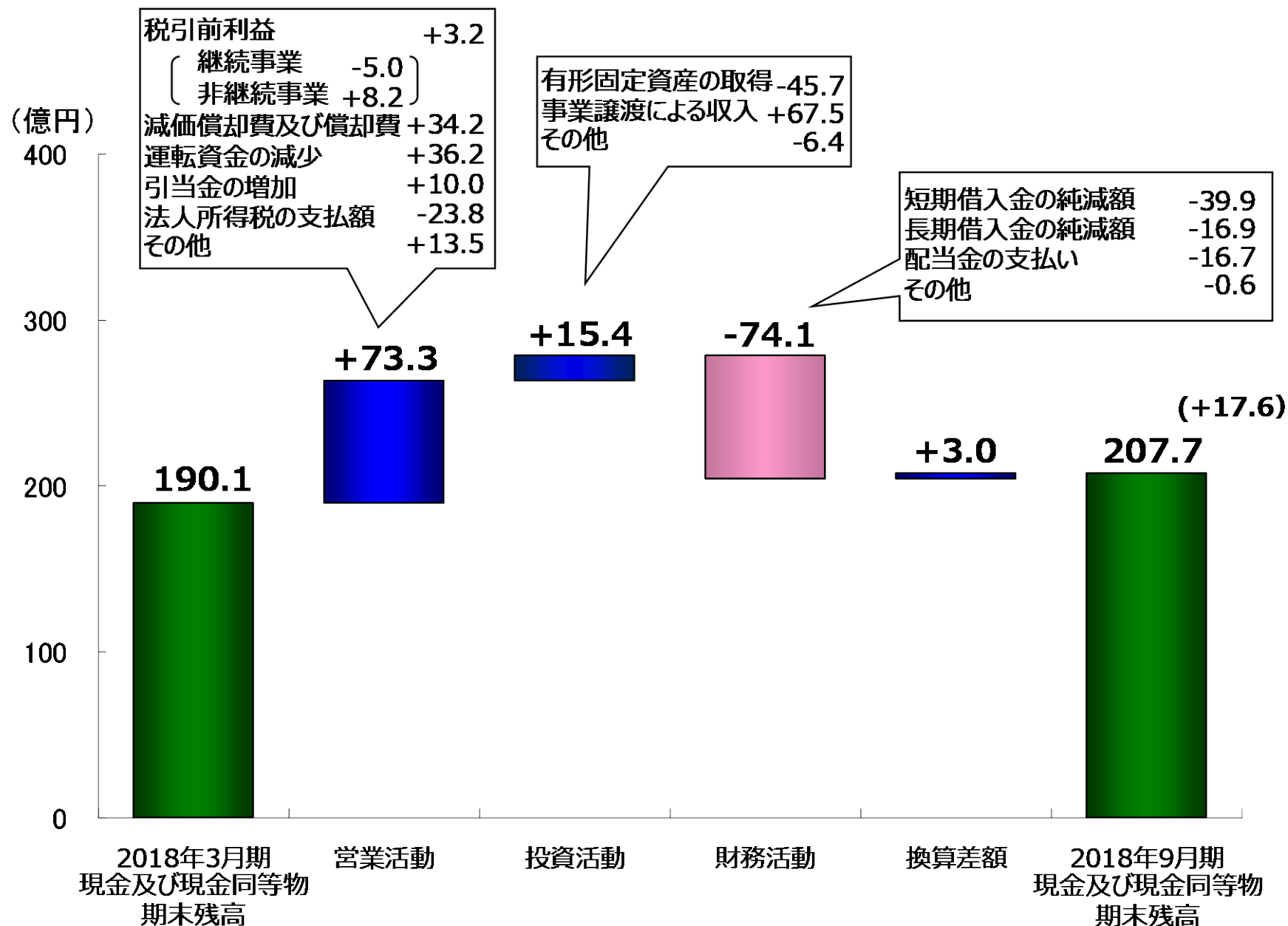
(単位:億円)



(単位:億円)



2019年3月期 第2四半期 連結キャッシュ・フロー



2019年3月期 第2四半期 連結財政状態計算書

	2018年3月	2018年9月	増減	コメント
資産合計	1,313億円	1,184億円	-129億円	営業債権の減少 -96億円 有形固定資産の減少 -41億円
負債合計	595億円	488億円	-107億円	営業債務の減少 -60億円 有利子負債の減少 -55億円
親会社持分	590億円	565億円	-25億円	包括利益 -21億円 配当金の支払 -4億円
非支配持分	129億円	132億円	+3億円	包括利益 +16億円 配当金の支払 -13億円
資本合計	719億円	697億円	-22億円	—————
負債及び資本合計	1,313億円	1,184億円	-129億円	—————
有利子負債残高	150億円	94億円	-56億円	日本(完成中事業譲渡収入による返済他) -66億円 米州 +11億円 中国 - アジア -1億円
親会社所有者帰属持分比率	44.9%	47.7%	+2.9P	—————
有利子負債依存度	11.4%	8.0%	-3.4P	—————
1株当たり親会社所有者帰属持分	2,457円	2,353円	-104円	—————

■ 2019年3月期 第2四半期 連結決算

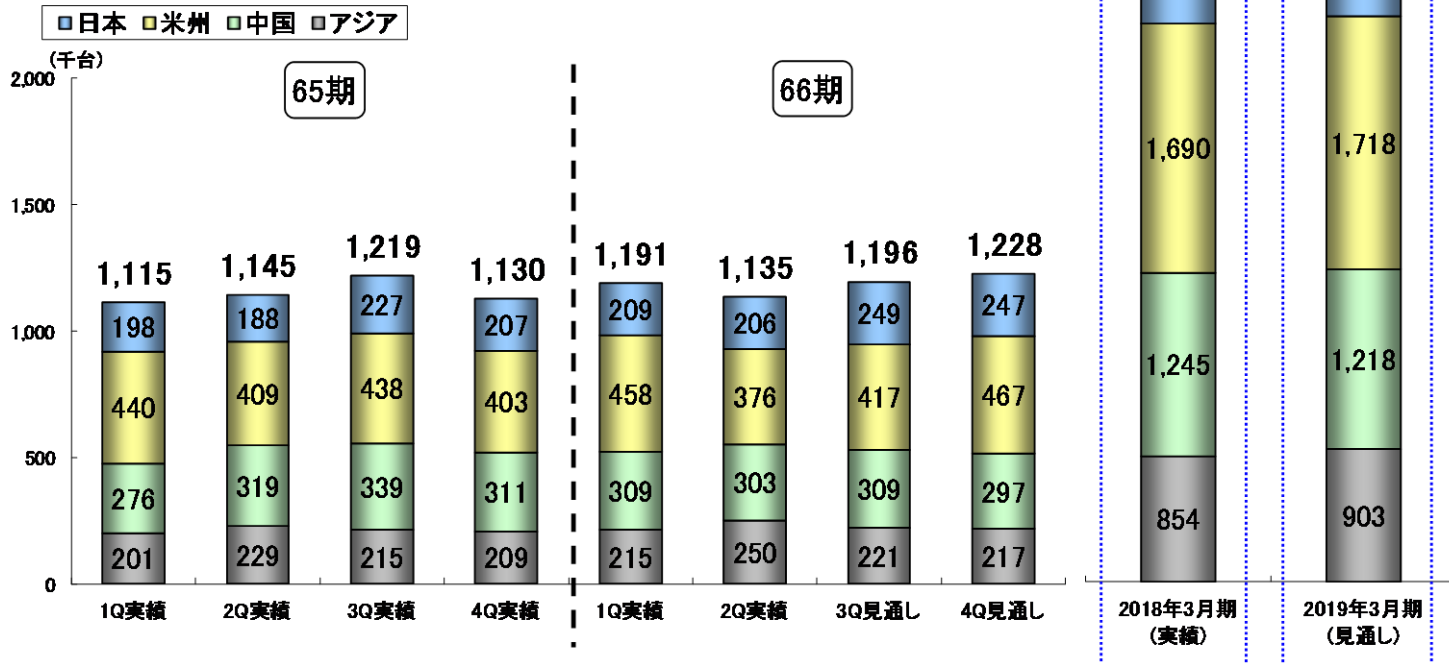
■ 2019年3月期 連結業績見通し

2019年3月期 連結業績見通し

継続事業	2018年3月期 (実績)	2019年3月期 (見通し)	前年度比 (増減率)	2019年3月期 (計画)	5/8公表見通し からの増減額
売上収益 (自動車部品分野)	1,656億円	1,610億円	-46億円 (-2.8%)	1,630億円	-20億円 (-1.2%)
営業利益 (対売上収益比率)	93.7億円 (5.7%)	13.0億円 (0.8%)	-80.7億円 (-86.1%)	94.0億円 (5.8%)	-81.0億円 (-86.2%)
税引前利益 (対売上収益比率)	92.2億円 (5.6%)	12.0億円 (0.7%)	-80.2億円 (-87.0%)	94.0億円 (5.8%)	-82.0億円 (-87.2%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (対売上収益比率)	48.0億円 (2.9%)	-39.0億円 (-2.4%)	-87.0億円 (-%)	50.0億円 (3.1%)	-89.0億円 (-%)
為替レート (USDドル)	上期: 111円 通期 下期: 111円 111円	上期: 110円 通期 下期: 105円 107円	4円 円高		

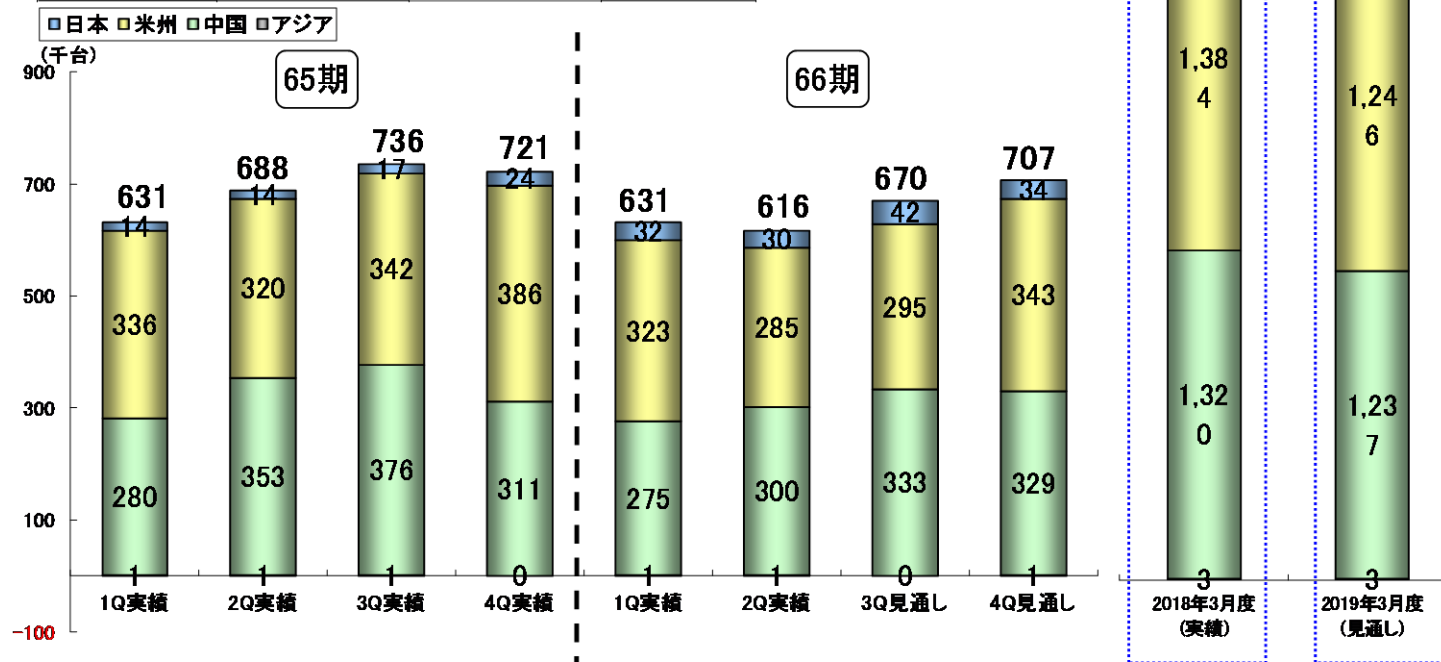
非継続事業	2018年3月期 (実績)	2019年3月期 (見通し)	前年度比 (増減率)
売上収益 (自動車部品分野)	93億円	—	-93億円
営業利益 (対売上収益比率)	18.7億円 (20.1%)	8.2億円 (-%)	-10.5億円 (-56.2%)
税引前利益 (対売上収益比率)	18.7億円 (20.1%)	8.2億円 (-%)	-10.5億円 (-56.2%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (対売上収益比率)	24.5億円 (26.3%)	8.2億円 (-%)	-16.3億円 (-66.5%)

	2018年3月期 (実績)	2019年3月期 (見通し)	前年度比 (増減率)
生産台数合計	4,609千台	4,750千台	+141千台 (+3.0%)
日本	820千台	911千台	+91千台 (+11.1%)
米州	1,690千台	1,718千台	+28千台 (+1.6%)
中国	1,245千台	1,218千台	-27千台 (-2.2%)
アジア	854千台	903千台	+49千台 (+5.8%)
売上収益	384億円	392億円	+8億円 (+2.1%)
内、為替影響	-	-12億円	+20億円 (+5.3%) ← 実質的な売上増



	2018年3月度 (実績)	2019年3月度 (見通し)	前年度比 (増減率)
生産台数合計	2,776千台	2,624千台	-152千台 (-5.5%)
日本	69千台	138千台	+69千台 (+98.0%)
米州	1,384千台	1,246千台	-138千台 (-9.9%)
中国	1,320千台	1,237千台	-83千台 (-6.2%)
アジア	3千台	3千台	+0千台 (-%)
売上収益	539億円	495億円	-44億円 (-8.2%)
内、為替影響	-	-11億円	-33億円 (-6.2%)

← 実質的な売上減

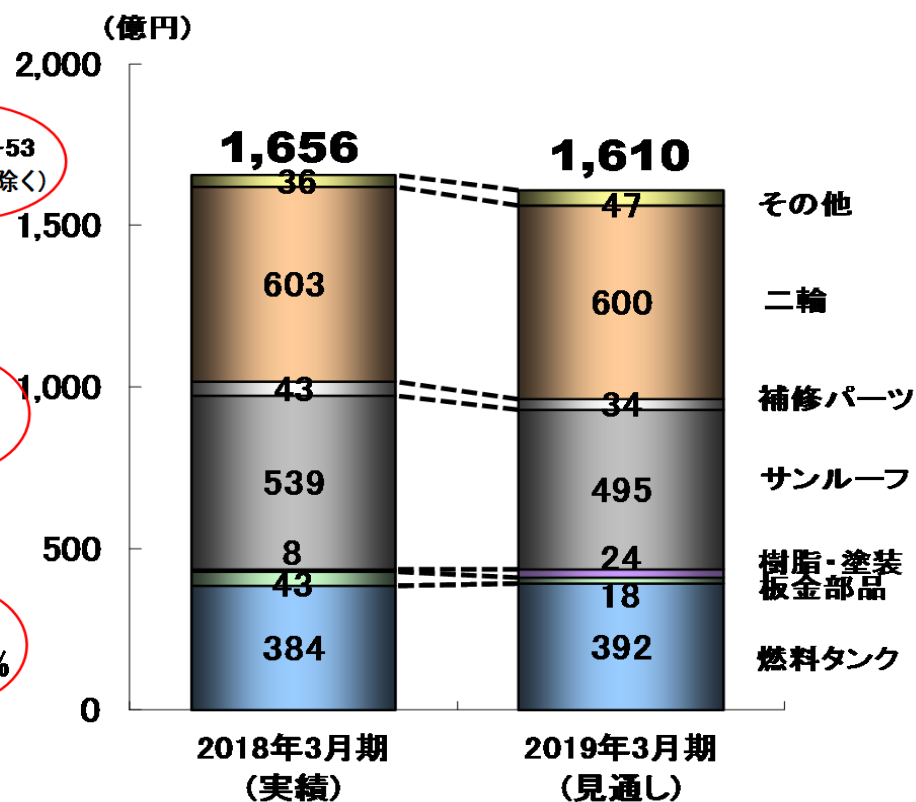
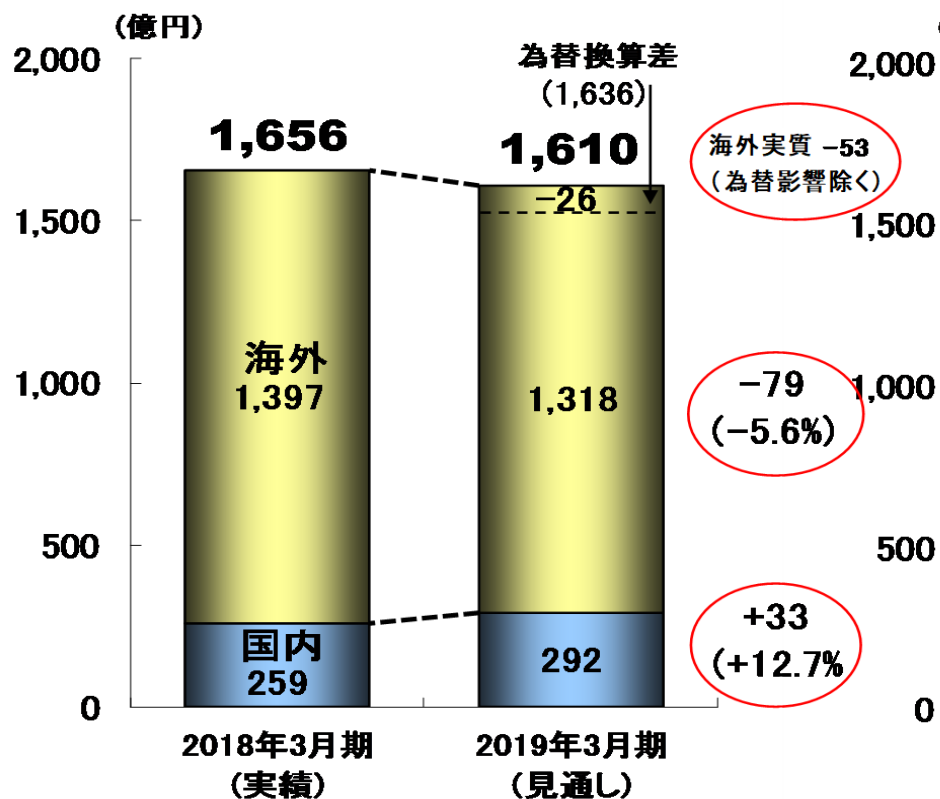


2019年3月期 自動車部品分野 売上収益見通し

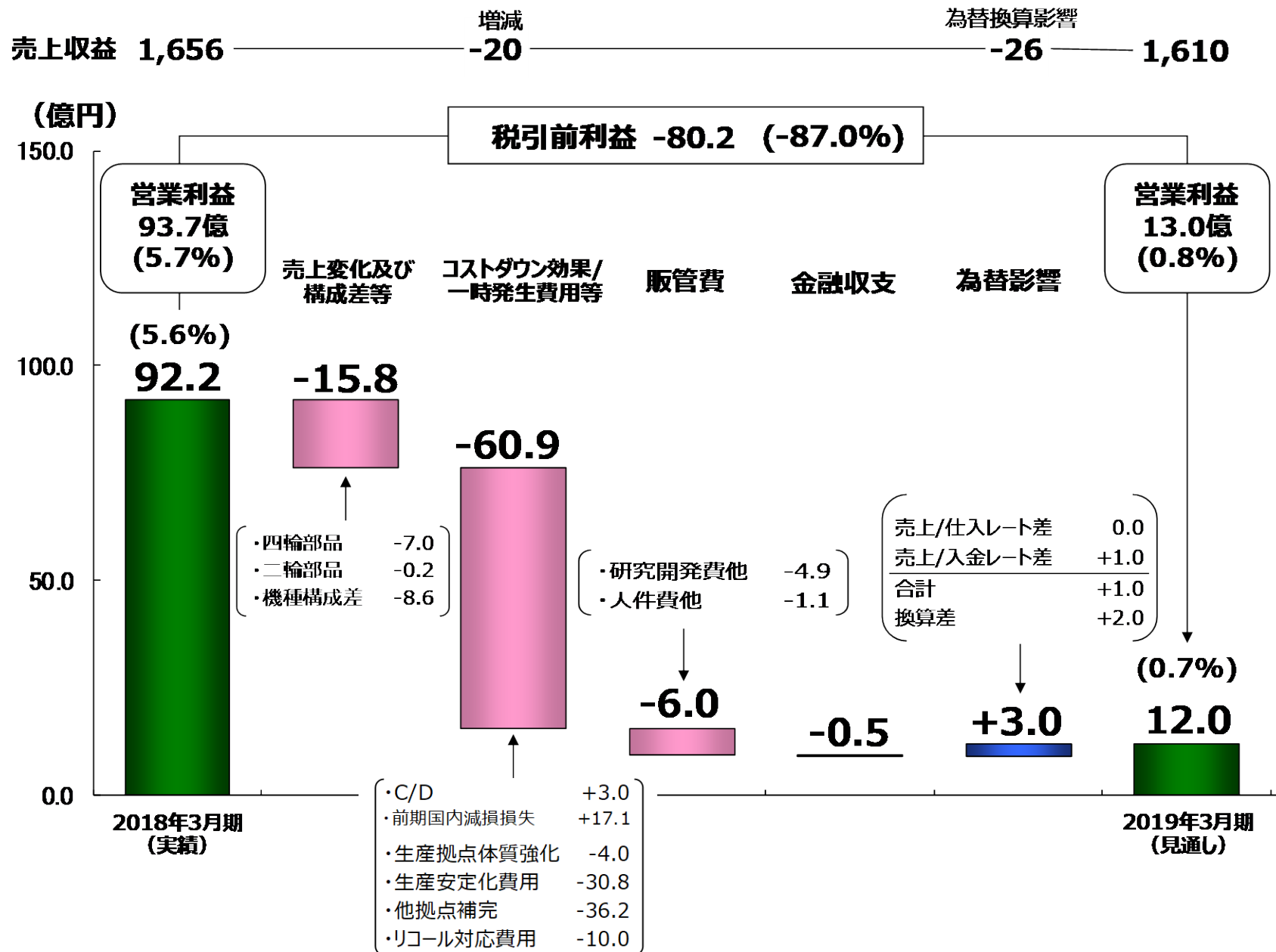
	2018年3月期 (実績)	2019年3月期 (見通し)	前年度比 (増減率)
売上収益	1,656億円	1,610億円	-46億円 (-2.8%)

国内／海外区分

部品別区分



2019年3月期 連結税引前利益増減要因 前年度比



	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期 (予定)		前年度比 (増減)
			期初	今回	
中間配当金	14円	16円	(16円)	8円	-8円
期末配当金	14円	16円	(16円)	(8円)	-8円
年間配当金	28円	32円	(32円)	(16円)	-16円
連結配当性向	14.2%	16.0%	15.4%	-%	-

本資料のうち、業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいて算定しており、判断や仮定に内在する不確定性及び今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と大きく異なる可能性があります。尚、上記の不確定性及び変動可能性を有する要素としては、主に以下の様なものがあります。

- ・主要市場における経済情勢及び需要の変動
- ・為替相場の変動
- ・主要市場における貿易規制等の各種規制
- ・主要市場における政治情勢
- ・当社が事業活動を行う上生じる当社の責めに帰すことのできない様々な障害

■ 決算説明

常務取締役
管理本部長

北村 哲也

■ 米州地域の生産対応について

代表取締役専務取締役
生産本部長

藤本 朋宏

■ 事業の方向性

代表取締役社長

山口 次郎

(当社「2018年3月期 決算説明会」資料より一部再掲)



- 樹脂製燃料タンクにおける新技術・新製法の導入
- 上記技術を適用した新機種の立ち上がり
- 新機種生産量の増加に伴う追従費用の増加
- 老朽設備での高負荷操業による稼働率の悪化
・ メンテナンスを施しながらのフル生産

日本からのエキスパート支援を含め、安定生産維持対応を推進中

支援は今期上期までの見通し

新規設備への入れ替えによる生産体質強化を進める

設備更新を含めた盤石な生産体制を整え、今後さらに体質を強化していく

今期末まで支援を継続



支援

現地従業員採用の遅れ
設備保全支援の長期化

今期末まで支援を継続

メンテナンス頻度の不足
設備の部分更新の遅れ

設備

支援

- 駐在体制強化
現地従業員の教育に注力
(採用は完了)

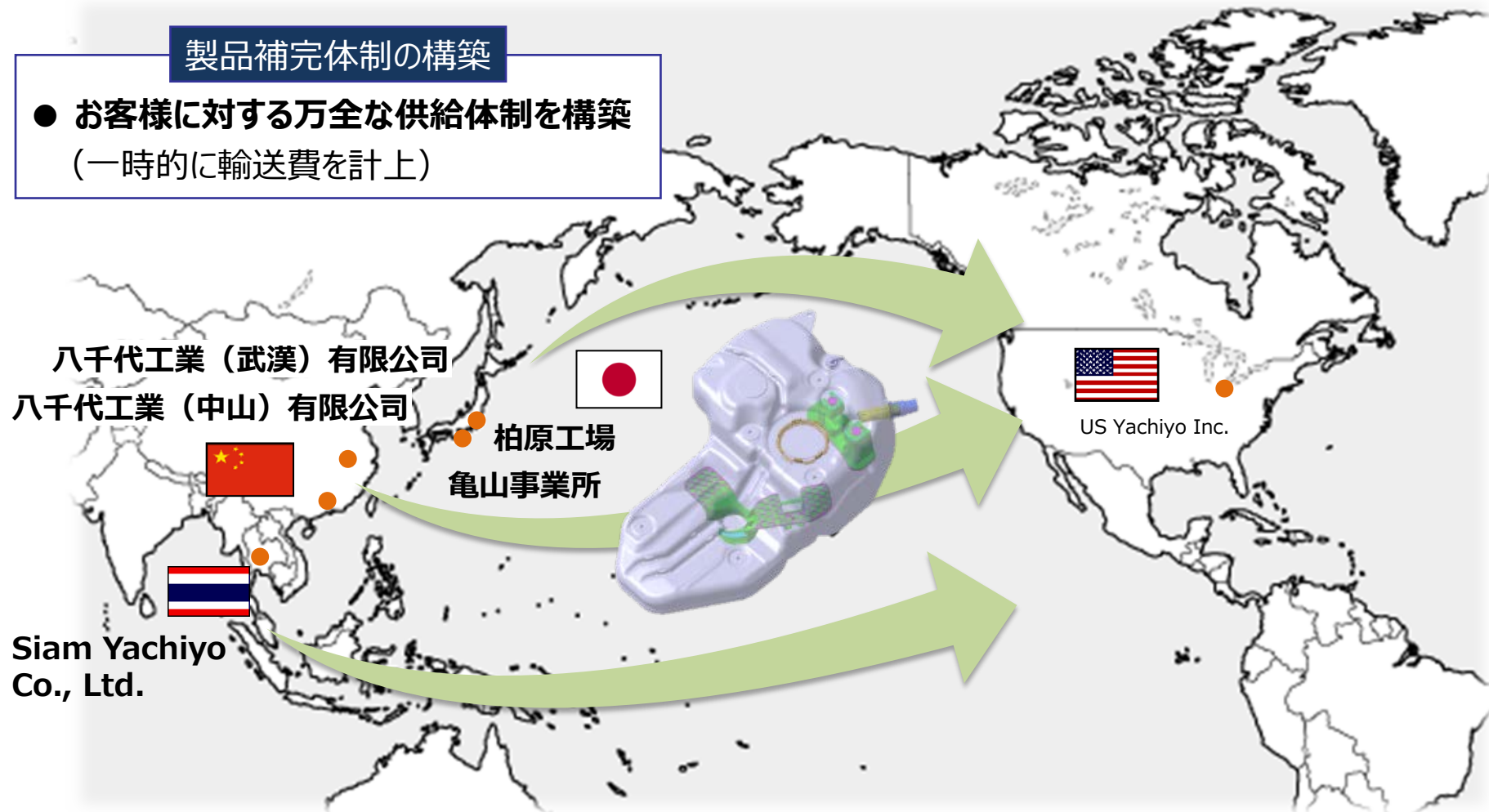
設備

- 現地組織によるオペレーションの強化
- テクニカルエキスパートの強化
- 大型連休での設備メンテナンス強化

12月までに安定供給、2019年3月までに安定生産の基盤づくりを完了

製品補完体制の構築

- お客様に対する万全な供給体制を構築
(一時的に輸送費を計上)



製品補完を含め、US Yachiyoの生産安定化施策を今期末完了で推進

■ 決算説明

常務取締役
管理本部長

北村 哲也

■ 米州地域の生産対応について

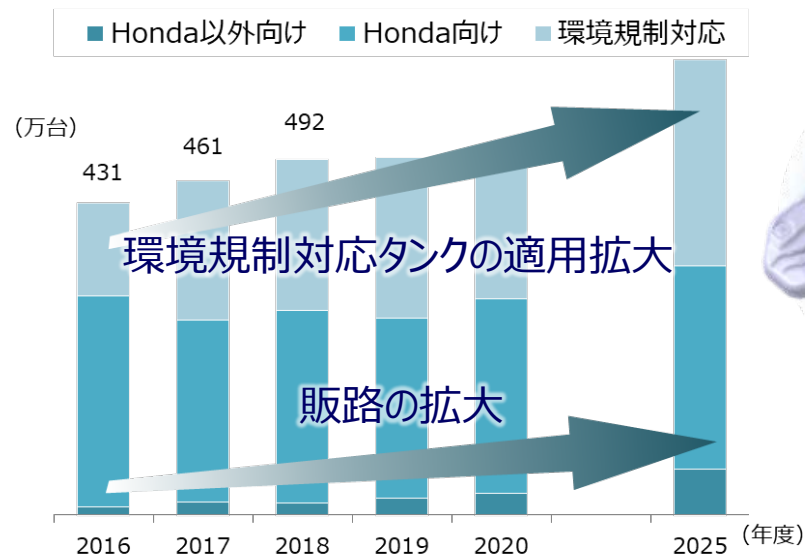
代表取締役専務取締役
生産本部長

藤本 朋宏

■ 事業の方向性

代表取締役社長 山口 次郎

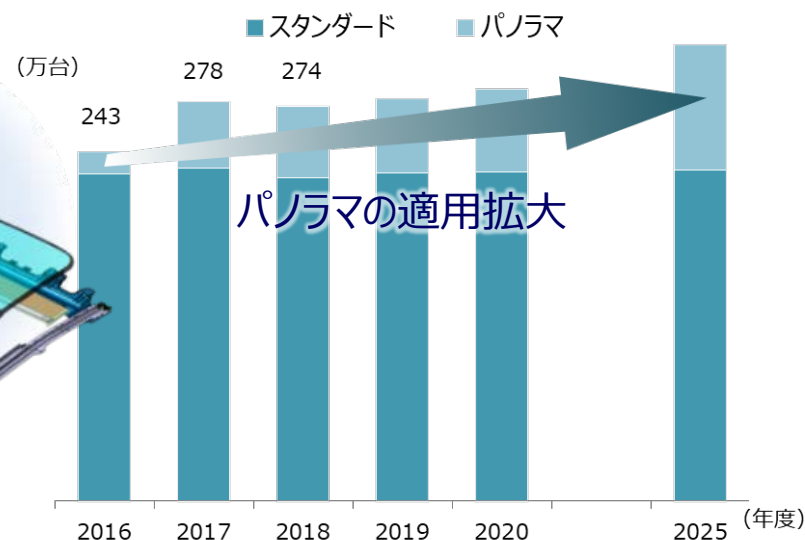
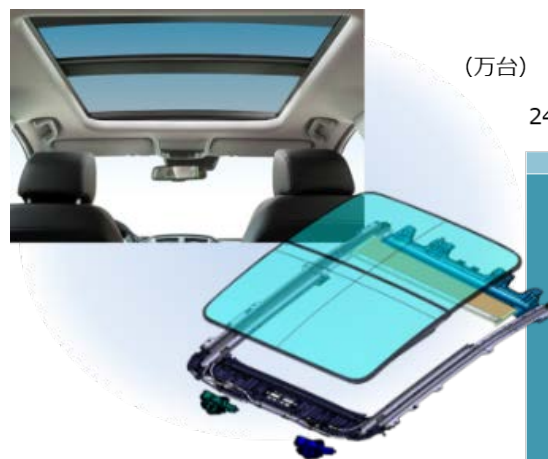
主力製品の進化



ODYSSEY（北米仕様）



CR-V



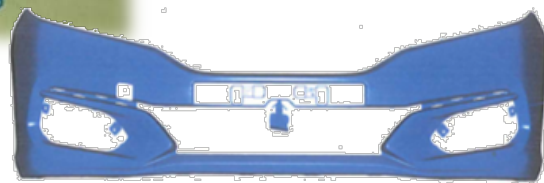
研究開発の強化を継続し、競争力のある技術・製品を生み出し続ける

Siam Yachiyo Co., Ltd.

2輪ボディ部品の
受注拡大を推進



2輪車用ボディカバー



4輪車用バンパー



Siam Yachiyo
Co., Ltd.

鈴鹿工場

鈴鹿工場

2018年5月より
ダイハツ様向けバンパー生産開始



樹脂製品の拡大展開を進め、事業の柱のひとつとして確立



Honda
TECHMATIC
SYSTEM

2014年モデル



Honda
FRANZ
SYSTEM

2016年モデル



運転する喜びを、より多くのお客様へお届けし続ける

